

かけ橋

まだ見ぬ君へ…



▲作品づくりに熱が入ります

今回は、広見荘を拠点に活動を繰り広げている高齢者の陶芸グループ「富士偕楽窯会」を紹介致します。

富士偕楽窯会

昭和五十五年に発足した偕楽窯会は、六十歳以上の高齢者を対象に、広見荘で開かれている陶芸教室で、陶芸の基礎を学んだ皆さんによりつくられたグループです。名前は、『詩経』の中の文王を詠んだ詩にある「偕に楽しむ」という一節に由来。約八十人の会員の皆さんは、毎月第一・三週目に三つのグループに分かれ、作陶活動に励んでいます。会では、作陶展の開催のほか、市展や福祉展への出品、消防まつりでの即売など活発な活動を行っています。

会長の水原義倫さんと指導員の山岡義雄さんは、「皿などの食器、花瓶、つぼから置物まで、講師の指導を受け、自由につくりたい物をつくっています。作品は必要なだけちぎった粘土を、



▲偕楽窯会の皆さん

ひものようにひねりながら積んでいく『紐づくり』という方法でつくっています。また、会員の中には、ろくろを使つての作品づくりに取り組んでいる人もいますよ。

陶芸の楽しさは、窯から作品を出したときの一瞬にあります。窯の温度や、窯に入れた作品の置きぐあいによる熱や空気の流れといった『窯の雰囲気』が作品のどきに影響を与えます。雰囲気いかんで、焼きぐあいや色など大きく変わってきます。自分の思うような作品ができたときは本当にうれしいですね。会の名前のとおり、これからも陶芸を通じた親睦をさらに深めていきたいと思ひます」と話してくれました。

●偕楽窯会作陶展
と き 三月十四日(水)～十八日(日)
ところ ロゼシアター展示室
※広見荘で行っている墨絵・書道教室の作品展も同時開催。

市長への手紙から

今泉公民館入り口の坂へ手すりを

今回は、今泉公民館入り口の坂への手すり設置について、公民館を利用して、今泉読書会からお手紙をいただきましたのでご紹介致します。



▲今泉読書会の皆さん

「市長への手紙」から

今泉読書会では今泉公民館を一か月に一回利用し、会員が読んだ本についての感想の発表や意見交換などを行っています。

会が発足してから三十年以上たち、年々会員も年齢が増してきています。

足腰が弱くなるなど身体の自由がなくなってきたり、今泉公民館には旧公民館寄りに階段があります。急な階段のため、上り下りが大変です。せめて公民館入り口の坂に手すりをつけていただけると、安全に通ることができると思ひます。

「市長からの回答」

市長への手紙ありがとうございます。現在の今泉公民館は、旧公民館の隣接地に建設し、平成十一年四月から今泉地区の皆さんを中心に多くの方に利用されています。新しい公民館は歴

史豊かな今泉地区にふさわしく、山城をイメージした和風のデザインとし、敷地の高低差をそのまま利用し、三階建てとしました。そのため、公民館では初めてエレベーターを設置するなど身障者や高齢者にも使いやすい施設となっています。

しかし、公民館東側の入り口についてはご提言のとおり斜度が大きく、手すりなどが必要であり、設置可能な場所も確保することができましたので、今回設置いたしました。ぜひ、ご活用ください。



▲今泉公民館入り口の坂に設置された手すり